

天庫星

人間の人生行程は「死」によって終わるのではなくて、帰るべくして帰る「土」という故郷があるのです。

人間は、この「土(墓)」の中で永遠の眠りにつき、靈魂と肉体の接点であった世界に、ここで別れを告げるのです。

古来から「人間の肉体は東に生まれ、西方浄土へ旅し、靈魂は南に生まれて北へと帰る」という教えがありますが、それぞれが無の世界へ向かって進み始める出発点の世界、それが「天庫星の世界」なのです。

「天庫星の世界」は、北と西の二つの道を所有していながら、現実の世界よりも、精神の世界をひた走るのです。

それでいて、一つの道だけを選ぶ事が「天庫星」の役割なのです。

さらに、一定の方向を定めると無の空間を走る性情の「天庫星」だけに留まるということを知らないのです。

それこそ一直線に進むのです。その正直さと一本気は、さわやかなまでに頑固なのです。

それが、ときには子供の様な純粹さとなり、表裏側面、常に一体となって、ひとすじの光の如く突き進んでゆくのです。

また「天庫星の世界」は、とにかく古いものが好きですから、思考法も相当に古典的です。ときには探究心の強さから「歴史の星」とも言われています。

「天庫星」は「長子」か「末子」に生まれるのが常であり、「先祖を祀り」「先祖の墓を守る」という役目を宿命にもつ星世界でもあるのです。

■「天庫星」が晩年運(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)に出ているひと。

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。

「天庫星」が右足の所に出ているひとの晩年運は、老いてなお一業に徹する……ような生活をする老後の人生の暗示があります。

たとえば、永年の経験によって身についた知識・技術が、年寄りの取りえの域を超えて、社会に役立つようなことをする